



ほりかね道

狭山市立堀兼中学校便り
令和7年度6月号
発行者 和田 雅士

堀兼中生の人間性を高める6月の具体的行動目標

「イライラしたら深呼吸を3回する」(落ち着いた行動)→心のゆとり

何気ない習慣、声かけによる安心感

私事ですが、私の母は昨年他界しました。生前の元気な時は同居していました。回想すると母は、高齢者と言われる年齢になっても、私や妻、子どもたちが出かける時、それぞれが出かけるタイミングで、ほぼ毎日玄関先まで出て、「いってらっしゃい」と見送ってくれました。私自身は、当時、成人してから長い月日が経ち、子どももいる年で母親に見送られると少々、照れを感じていましたが。ある日、母に尋ねてみました「どうして、毎朝、(孫はともかく)私や妻まで見送ってくれるのか?」と。

答えは「習慣だから」という簡単なものでした。母は子どもの頃から自分の父親を毎朝見送っていたそうです。戦前、戦中育ちの母は、戦争でいつ親と死に別れるかという不安の中、この見送りが親を見る最後になるかもしれないと常に思っていたのでしょうか。また、早くに母親を亡くしているので、長女であった母は、兄弟姉妹の面倒を見る母親代わりとなっていたのもあり、家族を玄関先で見送る習慣がついたようです。私の問いに対する母の答えで「孫が出かけるのを(心配で)放っておけない」とも言っていました。孫である私の小1(当時)の娘にも尋ねてみました。「いつもばあばが『いってらっしゃい』と見送ってくれるとどんな感じ?」すると、「安心する!見守ってくれている感じ」と答えました。毎日の何気ない習慣、声かけの繰り返しの中で、娘は、知らぬ間に「私は家族に見守られている」と刷り込まれ、安心感を覚えるようになっていたのだと気付きました。

「小1の壁」という言葉がトレンドとなり、社会問題になっていますが、昨今の日本の社会状況や日本の労働者の生活スタイルから考えると、子どもの登校より早い時間に家を出なければいけなかったり、健康寿命も延び、労働者の年齢層が上に広がっている状況から、「じいじ、ばあば」も働いていて、家族の中で子どもが最後に家を出るといってご家庭も多かったりすると思います。そんな中、昭和のホームドラマの朝の1コマのようなことを美化するつもりはないし、全ての保護者やご家族にお願いするものではありません。ただ、私は自分の母親の朝のルーティーンという習慣を通して、親や祖父母が子どもや孫を思う愛情というものは、普段の何気ない習慣や声かけの繰り返しの中で、自然に子どもたちに伝わっているのだと認識しました。また、そんな何気ない習慣や声かけに有難さを感じ、それから感じる安心感もあるのだと思っています。

毎朝、子どもを見送るのは現実的ではないし、毎日の習慣としては難しいこともあると思いますが、帰宅時や、週に1回(例えば、家族全員が休みの日だけは朝ご飯を一緒に食べるとか、週1回は親子で夕飯の買い物にいくとかなど)気軽にできることを家族の習慣にしたり、その習慣の中で子どもに何気ない声をかけたりすることで、子どもの安心感が徐々に醸成されるのではないのでしょうか、そして、家庭の中にも子どもの居場所があることにつながるのではないのでしょうか。

学校総合大会の応援をよろしくお願いします。

- 1 期日 令和7年 6月12日(木)、13日(金) *14日(土)は野球の決勝のみ実施
- 2 会場 別紙参照 *スクリレ配信済み
- 3 その他 ○各会場とも十分な駐車スペースが確保できないため、できるだけ公共交通機関でご来場下さい。
○当日、堀中に登校する生徒は、3時間授業の後、下校となります。給食はありません。

堀中生の活躍

通信陸上市予選会 (5.11狭山台中校庭)

令和 6 年度狭山市スポーツ協会表彰(敬称略)

優秀選手賞

(エニ加全日本ジュニア選手権 2024 第 3 位 硬式庭球)

奨励賞

(MUGEN 道 03 優勝 空手)

頑張りました！おめでとうございます。

古の都に行ってきました！【3年修学旅行から】

6月の生活目標

○テストに向け復習しよう

○イライラしたら深呼吸

○最後まで諦めないで挑む／応援

日	6月の主な行事

自然体験をしました。【2年宿泊学習から富士山麓】

令和 7 年度学校運営協議会委員のメンバーです。

よろしくお願いします。